

集落支援員だより

第20号

発行者 東和地域集落支援員
 連絡先 66-2490
 発行日 令和3年8月26日(木)



談話

地域と農業のこれから
 認定農業者／西谷佐藤農園
 佐藤 佐市さん



太田 西谷区
 佐藤 佐市さん

私は1952年に生まれ1970年に農業を始めました。もうすぐ70歳になりますが、地域や農業について思いを書いてみたいと思います。

私の住んでいる西谷集落は、平素穏やかで人情味豊かで、結構みんなで仲良く暮らしている地域だと思います。

2011年の東日本大震災、原発事故は大変でしたが、またそれよりも西谷集落にとって大打撃を受けたのは、2015年の大雨、2019年の台風19号でした。私は、原発事故も川の氾濫も、天災だけでは

なく人災の面が強いと思っています。

農業を始めて50年以上になりますが、この10年間の様々な異常な現象(原発、気象、政治等は、地域を大きく変え、風景も変わりました。秋の黄金色に輝く田園風景は極端に少なくなり、鬱蒼とした森が里山に迫ってきています。

この異常な現象に私たちの農業が関わっています。農薬、化学肥料、モノカルチャー(単一作物のみの生産)。手間を省き、金になるものだけを作る農業は破綻することが目に見えています。その地域に合った単に食料生産だけではない自然と融合した農の姿が求められます。これは私たちの自助努力や共助だけでは無理です。公助が絶対必要です。

私たちの西谷集落に「自主防災活動組織」が発足します。みんなで助け合って地域と命を守る。これも、自助、共助だけでは無理です。安達太田川に流れる水がすんなりと阿武隈川に流れるようにするのも公助が必要です。



取材

休耕田で新たな試み
 ひまわり6000本



太田小田地区のひまわり畑

太田の小田地区(向ノ前集落)では、休耕田にサンフラワー(ひまわり)を植え、道行く人の目を楽しませています。

中山間地域等直接支払制度代表の菅野正幸さんと会員で、休耕田を何とかしたいという思いから今回のひまわり植栽に至ったそうです。

小田地区の中山間地域等直接支払制度の関連面積は7町6反歩で、約40アールの休耕田に6000本ものひまわりが植えられています。太陽とひまわり、まさに夏の風物詩となっており、車を停めてひまわり畑に見入っている人も多く見られ、

今後、名所的風景となるのではと期待をしております。

ひまわりが終わった後には、来年の春咲きの菜の花の種を蒔く予定で、来春には新たなお花畑の景観が見られるということで、また楽しみが一つ増えそうです。

談話

交通安全は家庭から

東和地区交通安全母の会
 会長 紺野 みゑ子さん

交通安全母の会は、地域の高齢者と子ども達の交通安全を守るため協力している団体です。

春から夏、秋、さらには年末年始の交通安全運動の際には、朝の街頭指導、交通安全テント村、交通安全パレードなどの行事に参加協力しております。

例年、とうわこども園での交通安全教室や子どもと高齢者の交通安全全リーダー研修会、交通安全母親福島県大会、交通安全県民大会、年末年始の交通事故防止合同出動式、交通安全啓発活動パワーアップ掛ける君作戦、地区交通安全祈願祭などの事業が執り行われております。ただ、残念なことに、昨年からの新型

コロナウイルス感染症のため、主な事業は中止となっております。

「交通安全は家庭から」は、私たち交通安全母の会の合言葉です。家族が出かけるとき、「いついつうっしゅい、車に気を付けてね」、「信号は右見て、左見て、もう一度右見て渡るんだよ」、「お父さんお酒を飲んだら車の運転はしないでね」と、やさしい声掛けが一番の願いです。

私たちはどんな状況でも、地域の皆様、そして家族を守るため、交通安全活動に努めて参りたいと思います。地域の皆様方のご協力、ご支援を頂ければ幸いです。

隠れ文化財

くまのがい 旧熊野谷分教場

集落の「白亜の拠り所」

戸沢十二区 集落づくり推進委

委員長 五十嵐 伝一さん

明治34年3月に開校した(出典：北戸沢廃校記念誌より)我が集落の旧熊野谷分教場は、現在戸沢十二区集会所として、集落民の唯一の拠り所として活用しています。月一回の「いきいきサロン」や隔月の「集落役員会」、年一回の「新春のつどい」、「集落ビンポン大会」などな

ど、集落民の憩いの場として利用しています。



戸沢十二区 旧熊野谷分教場

まず、当分教場の生い立ちから話しますと、前述した通り、明治中期に北戸沢小学校の季節分校として開校しました。当時は、小学校低学年(一年生から三年生)が冬期間三学期だけで、いわゆる複式学級として一教室に三学年が一緒に学んだものです。女の先生が一人で教えていたため、言ってみれば「聖徳太子」的先生でした。とは言っても、一斉に教えることはできません。例えば、一年生を教えているときは、二、三年生は自習時間です。当時は三学年で約30名近くもいましたので、大変に賑やかでもあり、喧嘩もありました。楽しみは給食でした。

集落の方々が当番で給食を作ってくれていました。今となっては懐かしく楽しい思い出です。

時が流れ、昭和49年まで続いた第一の母校も廃校となり、その後は当集落へ払い下げとなり集会所として使用し、現在に至っております。

せっかくの歴史ある建物を存続保存しようと思集落で話がまとまり、平成29年から3年間の事業で集落民が出役し、現在の「白亜の拠り所」となった次第です。皆さんお時間がありましたら是非昔懐かしい木枠のガラス戸に漆喰の壁の歴史的建造物をご覧ください。

案内 地域での自主防災活動

あなたも防災意識の向上を

今、台風や集中豪雨など、いつとれくらの勢力で襲来するかなど、予測の精度が高まっている為、私たちが住んでいる地域で防災や減災のためにはどのような行動を取ればよいのか、他方、誤った行動により結果的に地域の一部に甚大な被害を蒙る、という結果にもなりかねません。「自分の身は自分で守る」、「地域の安全は地域で守る」ということは安全の鉄則であります。

今、地球環境が危ぶまれ、身近な所で何が起きているかも分からなく、また何

が起きてもおかしくない時代と言われていると思います。

そんな中、大事なのは各々の住んでいる所の危険予知であり、常日頃から防災マップに目を通して防災に対するノウハウを身につけ、安全な集落づくりが急務ではないでしょうか。

みなさまの集落でも「自主防災組織」を結成し、地域の安全意識をさらに高められ、日頃から防災に備えておいてはいかでしょうか。

お問い合わせは、東和支所地域振興課 市民福祉係へお願いいたします。

一編集後記一

「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。

どんな小さな活動でも取材に行きますので、載せたい情報等がありましたら、集落支援員までご連絡ください。

感染症予防には手洗いうがいの徹底はもちろん大切ですが、自己免疫力を保つために適度な運動、バランスのとれた食事、十分な睡眠も大切です。

東和支所地域振興課(集落支援員) 問い合わせ先：66-2490(直通)